

2024年2月15日

新宿区長 宛て

団体名 特定非営利活動法人First Step
所在地 東京都新宿区百人町3-6-1
(フリガナ)イワサキ ハルヒコ
代表者氏名 岩崎 晴彦 印

新宿区協働推進基金助成金事業実績報告書

新宿区協働推進基金条例施行規則第12条の規定により、下記のとおり報告します。

記

1 収支計算額	収入	<u>419,658</u> 円
	(内助成金)	<u>268,000</u> 円
	支出	<u>419,658</u> 円

2 助成事業

事業名	① 区民のためのひきこもり（不登校を含む）への理解と対策講演会 ② ひきこもり個別無料相談会
実施の日時又は期間	① 令和5年12月9日（土）14：00～16：30 ② 令和5年12月10日（日）13：30～17：00
対象者の範囲及び人数	① 85名 ② 4家族
事業内容	① ひきこもり研究の第一人者、斎藤環筑波大学教授のひきこもり（不登校を含む）講演会を通して、区民のひきこもりへの理解促進と対策を考えることを目的とする事業である。 ② ひきこもりや不登校のお子さんをもつご家族の相談をおこなうことを目的とする事業である。

<p>具体的な活動状況</p>	<p>【講演会・相談会開始前の事前準備について】</p> <p>■運営会議等</p> <p>(1)4月8日(土曜日)：講師への依頼内容の検討</p> <p>(2)7月5日(水曜日)：周知チラシ・リーフレット検討</p> <p>(3)7月24日(月曜日)：斎藤氏を交えた講演会及び相談会の運営検討①</p> <p>(4)11月18日(土曜日)：講演会及び相談会の運営検討②</p> <p>(5)12月27日(水曜日)：イベントの振り返り</p> <p>■周知等</p> <p>(1)8月29日(火曜日)：民生委員・児童委員への先行募集開始 ・区的生活福祉課を通して、全員にチラシを配布</p> <p>(2)10月5日(木曜日)：区広報誌・チラシによる周知開始</p> <p>(3)11月3日(金曜日)：SNS・HPでの周知開始</p> <p>(4)11月15日(水曜日)：区広報誌による周知開始(個別相談会)</p> <p>【①区民のためのひきこもり（不登校を含む）への理解と対策講演会について】</p> <p>■当日リハーサル</p> <p>11月18日(土曜日)：四谷区民ホールでの運営リハーサルの実施 ※避難路の確認、椅子の配置、プロジェクター等の講演会で使用する機器の作動確認、コロナ感染症対策の確認、受付等の受け入れ態勢の確認</p> <p>■講演会当日の実績状況</p> <p>(1)日時：12月9日(土曜日) 14：00～16：30(13:30会場)</p> <p>(2)会場：四谷区民ホール</p> <p>(3)参加者数：一般参加85名 (内新宿区民30名、区外46名、無回答9名) 講師・スタッフ13名</p> <p>(4)講演会の概要：ひきこもり治療の第一人者であり、新しい心理療法・オープンダイアログの紹介者でもある斎藤環筑波大学教授によるひきこもり・不登校の講演会を実施。 ひきこもりがますます増える理由と、当事者たちの社会復帰を支援する方法について講演していただいた。</p> <p>(5)オンライン配信等 配信公開日：1月15日(月曜日) 当日参加できなかった方に向けて、講演会を撮影した映像の配信を行った。現在、弊会のホームページを通してYouTubeによる一般公開配信をしている。 ※個人情報に配慮した編集を新宿NPOネットワーク協議会と新宿NPO協働推進センターにて行った。</p>
-----------------	---

<p>具体的な活動状況</p>	<p>【②ひきこもり個別無料相談会】</p> <p>■相談会当日の実績状況</p> <p>(1)日時：12月10日(日曜日) 13：30～17：00 相談時間は、1家族あたり1時間30分程度 ※各家族の相談と相談の間には30分間の時間差を設け、プライバシーに配慮した。</p> <p>(2)会場：戸塚地域センター</p> <p>(3)参加者数：4家族(内新宿区民4家族)、スタッフ4名</p> <p>(4)相談会の概要： 講演会の波及効果を期待し、その翌日に個別無料相談会を行った。当然ながら、その場では解決しないため、引き続き、問題解決のため、弊会の親の勉強会に出ることをお勧めした。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>【講演会・相談会の周知について】</p> <p>始めに、新宿区民の中でひきこもりに関して、特に理解をしていただきたい民生委員、児童委員に対し、区的生活福祉課を通して、全員にチラシを配布し、先行募集を行った。</p> <p>ところが、他区ではひきこもりに関する研修を通じて、関心度が高いと聞いていたが、想定していた区内の民生委員、児童委員からの申込みがまったくなく、ひきこもりへの関心度が大変低いということが分かった。</p> <p>そのため、民生委員、児童委員の方のひきこもりへの関心度を高めることを目的とした研修が今後必要なのではないかと分析している。</p> <p>一般募集では、区広報誌、区の関連施設へのチラシ配布、掲示板の利用などで周知を行ったが、申込状況は芳しくなかったため、区と相談しSNS・HPでの周知を行った。</p> <p>弊会のSNS、HP及び区のSNSを利用し、広報活動もあわせて行ったところ、数日のうちにすぐ満席となり、それ以上の方についてはキャンセル待ちをしていただくほどの反響であった。</p> <p>【①区民のためのひきこもり（不登校を含む）への理解と対策講演会について】</p> <p>講演会について、定員の86名（定員は100名では？）を上回る申込みがあり、当日の参加者は85名であった。（1人は当日欠席）</p> <p>結果としてはおおまかではあるが、区民の方、および新宿区に在勤、在学の方の割合は4割程度であった。</p> <p>講演会については参加者の評価は大変高く、満足度80%以上の高評価は93.4%であった。</p> <p>（なお、アンケートの解析結果については別途資料参照）</p> <p>■講演会参加者の声(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私も長い間ひきこもっていましたが、そういう状態から脱せる人は非常に少ないというのは納得できます。 ・質問でゲーム障害やHSPを一刀両断にしてくれたのは親の方々にひろがる不安を切る意味で良かった。 ・NPOの方で関わった方たちの成功例、失敗例などの事例提示があると、参加者のモチベーションになると思う。

<p>事業の成果</p>	<p>【②ひきこもり個別無料相談会について】</p> <p>講演会の翌日に行った個別相談会には、定員の4家族の参加があった。相談を行った結果、3家族が会の親の勉強会に参加することになった。残り1家族は、対象の不登校児童がまだ幼く、子どもに対する対応の仕方をお教えしたうえで、しばらく様子を見ることをお勧めした。問題が発生した場合には、会へ連絡していただけることになっている。参加された4家族すべての皆さんに感謝していただいた。</p> <p>個別相談会において、参加したすべての家族に確認したところ、新宿区にひきこもり・不登校の家族会があることを全く知らないことが分かった。ひきこもり・不登校で悩む方々の助けとなるためには、「家族会」の周知が課題であり、次年度以降も引き続き、周知・啓発活動を行う。</p> <p>■相談会参加者の声(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別相談会では丁寧に話を聞いていただき有難うございました。区内にこういった家族会があることを全く知りませんでした。親子の信頼関係に問題があることはなんとなく気が付いてはいましたが、医師やカウンセラーに安易に解決策を求めることばかりしていました。親こそが回復に至る道の主役である、という言葉には納得いたしております。これからは、親の勉強会に夫婦で参加し、夫婦間、親子間の信頼を回復させていきたいと思います。 ・ここに来て、とてもよかったです。同じ、ひきこもりの子を持つ経験者とお話ができ、なんだか、気持ちがとても楽になり、涙が止まりませんでした。主人もつれてくればよかったと思っています。帰ったら早速、主人に話をして、勉強会と一緒に参加するつもりです。
--------------	---

収支決算書

費 目		予 算 額	内 訳
支 出 区 分	①使用料及び賃借料	8,600 円	四谷地域センター（多目的ホール）：講演会当日(12/9) 4,800円、 事前リハーサル(11/18) 3,000円、 戸塚地域センター（会議室2部屋）：ひきこもり無料相談会 (12/10) 800円
	②消耗品及び印刷費	65,580 円	講演会チラシA4サイズ片面（1,500部）@6,024×1.1=6,626円、追加 チラシ印刷（500部）@3,939×1.1=4,333円、リーフレット印刷 （2,000部）@25,497×1.1=28,047円、アンケート用使い捨てペン シル（50本入り）@629×2袋×1.1=1,384円、スタッフ腕章 @2,290×10枚×1.1=25,190円
	③委託費	105,606 円	会費集金Peatix利用77名分(入場券収益77,000円にかかる決済処理 費用11,396円+刷り込み手数料210円) 11,606円、 youtubeによる動画作成編集料 44,000円、 チラシ&リーフレットデザイン料 50,000円
	④講師謝礼	120,000 円	斎藤環筑波大学教授講師謝礼 120,000円
	⑤その他謝礼	0 円	
	⑥交通費	0 円	
	⑦保険料	0 円	
	⑧その他諸経費	円	
	⑨新型コロナウイルス感 染症対策経費	19,072 円	※上限20,000円 手の消毒用、手ピカスプレー@480×6本×1.1=3,168円、 マスク50枚入り@939×2箱×1.1=2,066円、 非接触型体温計@6,290×2個×1.1=13,838円
	⑩人件費	100,800 円	※下記「事業費」の25%以内 (106,286) 講演会：法人会員分@1,400×4.5時間×6名×1回=37,800円、 アルバイト@1,400×4.5時間×6名×1回=37,800円、 個別相談会：法人会費@1,400円×4.5時間×4人=25,200円
事業費（①から⑩の合計）		419,658 円	
⑪ファンドレイジングに関 する経費		0 円	※事業費の5%以内 (20,983)
⑫助成対象経費 （事業費+⑪）		419,658 円	
⑬助成対象外経費		0 円	
事業総額		419,658 円	

内 容		予 算 額	積 算 根 拠 (内 訳)			
収 入 区 分	㊦ 事業収入 (参加料、資料代等)	98,000 円	講師も含め定員100名、講師分、現金払い欠席者1名を除き98人× 1,000円=98,000円 参考：Peatix申込者77名（1名欠席）+ス タッフ12名+現金払い申込者9名、以上合計98名			
	① 寄附金	0 円				
	㊦ 補助金収入	0 円	予算時		返還額	0
	㊦ 協働推進基金助成金	268,000 円	交付額	268,000	返還額	0
	㊦ 団体負担金	53,658 円				
	収入総額		419,658 円			

返 還 金	0 円	
-------	-----	--

自己評価表

1 各項目に評価点を付し、「評価の理由」欄には、判断した理由や実績、課題等を記載してください。

【評価点】 4:計画書以上 3:概ね計画書どおり 2:一部計画書どおり 1:ほぼできなかった

評価のポイント	評価点	評価の理由
<p>地域課題や社会的課題に対して成果や効果があったか。</p>	<p>4</p>	<p>最も区民の実態を知っているであろうと考えていた民生委員、児童委員からの参加申込がなかった。これは、「ひきこもりへの理解不足」が原因で、本講演会に関心を持たなかったと分析している。</p> <p>これが浮き彫りになったことは、今後の解決すべき地域課題が明確になったといえ、大きな成果があったと考える。</p> <p>ひきこもりの実態把握と解決には地域住民の理解が非常に大切であり、特に民生委員、児童委員の方には理解をしていただきたいので、今後の課題としたい。</p> <p>また、講演会では、私たち自身も驚いたが、参加者の真剣な眼差しと熱気は講演者である斎藤先生が「殺気を感じた」と言うほどであり、先生自身も椅子に座らず、立ちっぱなしで行う中身の濃い講演会となった。</p> <p>その眼差しは、区内の苦しむ家族、当事者からであると思われ、ますます家族会としての存在意義、役割を強く感じた。</p> <p>参加された方のアンケートからは、高い満足度が得られ、「参加してよかった」という声をいただけたので、成果、効果は十分にあった。</p>
<p>事業を通じて、多くの区民の社会貢献活動の啓発に役立つものとなったか。</p>	<p>3</p>	<p>講演会事業については、参加者のうち区民の割合を80%以上としたかったが、①広報の仕方をもう少し考えるべきであったこと（最初から区のSNSを使うべきであった）②民生委員、児童委員の方々の「ひきこもりに関する理解度」の実情をあまりよく知らなかったこと、から実際の集客に対して区民の割合は当初期待していたように集まらなかった。</p> <p>しかし、定員を超える申し込みがあり、区民参加者もかなりいたので、社会貢献活動の啓発に役立ったと考える。</p>

<p>事業計画及びスケジュールに沿って事業を実施できたか。</p>	<p>3</p>	<p>■講演会：講演会の参加者募集について、事業計画に沿って、当初、区の民生委員・児童委員に限り先行募集を行った。すぐに満席になるであろうという予想に反し、参加者はゼロであった。</p> <p>その後、区広報誌で募集を実施するも、結果が出ず心配をしたが、区のSNS、弊会のSNS、HPで周知を行った途端、すぐに満席となった。満席後も問い合わせが多く、お断りせざるを得なかったのは残念である。当日参加できなかった方は、動画配信にてフォローしている。</p> <p>講演会当日については、予行演習をおこなっていたので、ほぼスケジュール通りに実施できた。</p> <p>■個別相談会：事業計画通り実施できた。</p> <p>1組あたりの面談時間の確保と相談者同士が会場で会わないように適度な時間差を設定したので4組しか相談はできなかったが、問題なく実施できた。</p>
<p>実施にあたり、必要な人員や安全等の確保がなされたか。</p>	<p>4</p>	<p>■講演会：事前に講演会会場の予行演習を行なったため、ほぼ計画通り実施できた。また、事前に避難路の確認、感染症対策を確認し、スタッフ全員に周知を行った。</p> <p>人員については当初より2名増やし、集中が予想される受付業務を講演会開始15分前から増員することで対応ができた。</p> <p>■個別相談会：個人情報保護の観点と時間的な制限があり、4家族を対象とした。安全対策については避難経路の事前確認、マスク着用を行っている。</p>
<p>経費見積りは適正だったか。資金確保に努めたか。</p>	<p>3</p>	<p>■講演会：当初の計画より講師謝礼が増えてしまったが、計画どおり実施できた。</p> <p>■個別相談会：当初の計画どおり実施できた。</p>
<p>団体の先駆性や専門性を活かすことができたか。</p>	<p>4</p>	<p>■講演会：ひきこもり研究・その治療方法としてのオープンダイアログ提唱の第一人者を招聘し、講演会をおこなった。弊会が先駆的に20年以上前から行ってきた他の団体にはない特徴であるオープンダイアログ的な親の勉強会をある程度周知させることができたと思う。</p> <p>■個別相談会：新宿区の4家族と相談を行い、私たちの会の先駆性であるオープンダイアログ的な親の勉強会の意味を十分理解していただけた。</p>

<p>継続性や発展性が期待できるものとなったか。</p>	<p>4</p>	<p>「区民への理解を図る」という課題に対する継続性という意味では、民生委員、児童委員への理解促進を図ることができておらず、次回への課題であるし、更なる発展につながるものである。</p> <p>民間の一団体では民生委員や児童委員に直接理解促進をお願いすることは難しいため、行政の力をお借りしながら活動を続けていきたい。</p> <p>次年度も引き続き普及啓発を行うため同様な講演会を継続したいと考えているが、本助成金では助成率が下がるため、事業経費を確保する策を検討しなければならない。寄附やクラウドファンディングの活用といった収入の確保策を検討していきたい。また、区に対して他の方法も含めて、弊会として出来ることがないか、ひきこもり相談窓口をとおして陳情したい。</p>
------------------------------	----------	--

2 事業全体を振り返って気づいたこと等をお書きください。

<p>事業を実施したことで見えてきた良かったこと、また課題や改善策。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり当事者、家族に一番近いと思われる民生委員、児童委員の参加者がいなかったということは誠に残念であったが、今後の課題を見つけることができた。 ・区民のひきこもりに対する理解度はまだまだ低く、行政や我々家族会が中心になって区民の理解促進を図れるよう、努力していきたい。 ・新宿区には、当事者家族が作った家族会が存在することを周知していくことは、依然として残る課題である。 <p>そこで、周知活動として、東京都のひきこもりサポートネットへの家族会としての団体登録を目指したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の事業を通して、他区のひきこもり事業を調べてみたが、新宿区は遅れているということが分かった。11月にひきこもり相談窓口ができたが、これを機に担当の方々と協力して他区に劣らないひきこもり対策が存在する区となるよう努力していきたい。 ・今回、電話による講演会申込み者は、ほぼ年配者と思われる方々であり、新宿区でも8050問題がすでに大きな課題となりつつあるのではないかと分析している。
--	---

<p>助成金を利用することで、団体や事業にとって有益となったこと。 (例：事業運営での気づきや工夫、解消された課題等)</p>	<p>我々のような家族会という経済的基盤の弱い団体にとって、助成金がなければこのように大きな講演会は開催することができなかったと思います。</p>
---	---

- *参加者アンケートの結果を報告してください。
- *事業の成果物(冊子等)、事業の開催時の写真等提出できるものがある場合は、添付してください。

1 「区民のためのひきこもり(不登校を含む)への理解と対策講演会」

令和5年12月9日(土曜日)に実施したFirstStep主催の講演会「区民のためのひきこもり(不登校を含む)への理解と対策講演会」のアンケート結果及びその分析について以下に示す。

2 参加者数

(1)実参加者(内訳)

一般参加者	85名
運営スタッフ	12名
講師	1名
欠席(未払い)	1名
欠席(支払い済み)	1名

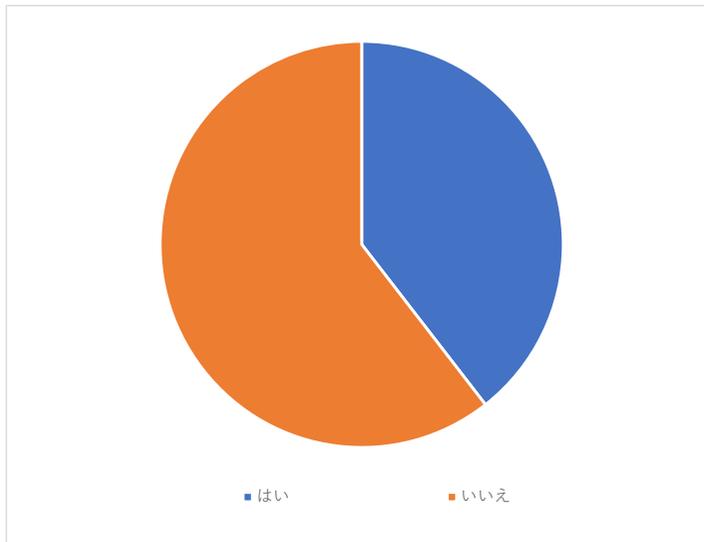
(2)アンケート回答数

一般参加者85名に対してアンケートを実施し、76人から回答があった。(回答率89.4%)

3 アンケート結果及び分析について

(Q1)あなたは新宿区民、新宿区に在勤、在学の方、または新宿区にひきこもり・不登校の親族・友人が住んでいる方ですか？

はい	いいえ
30	46



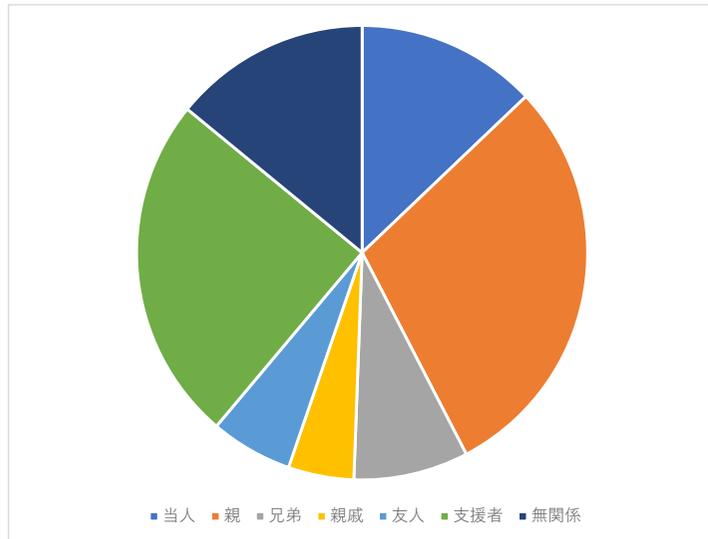
アンケート結果では、新宿区民、新宿区に在勤、在学の方の参加率は39.5%、区外からの参加率は60.5%であった。

区民参加率が低くなった理由は、当初、民生委員・児童委員の先行募集を行ったが、思うような集客に繋がらなかったことが原因であると分析する。

一方で、区外参加者の割合が高くなった理由は、一般募集で、SNS経由での申し込みが多かったため、区内外問わずから申し込みがあったためだと分析する。しかしながら通常に一般募集をしたことを考えると区民の割合は十分納得できるものであった。

(Q2)ひきこもり・不登校の方とのご関係をお尋ねします。(複数チェック可)

当人	親	兄弟	親戚	友人	支援者	無関係
11	25	7	4	5	21	12



最も多いのは親(32.9%)であり、次に支援者(27.6%)、無関係(15.8%)、当事者(14.5%)の順となった。

支援者が多いのは、斎藤環氏がひきこもり研究の第一人者であり、既に引きこもりへの支援を行っているため、関心度が高い方が多かったためであると分析している。

また、親族(親、兄弟、親戚)が47.4%、当人を含めると61.8%と家庭間において悩みを抱える方が多いということが改めて分かった。

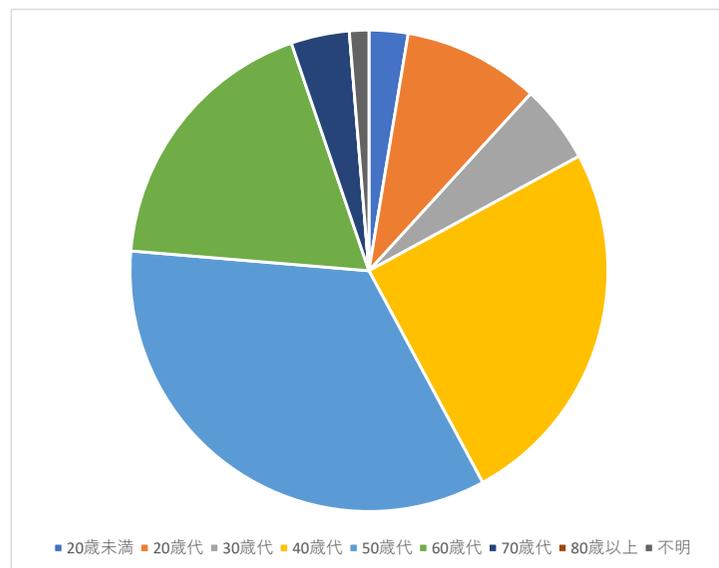
次回のイベントを計画する際には、関心度が高い親族に焦点を当てた事業を行いたい。

また、当団体では、「親が変われば子も変わる」という信条に基づく活動をしており、この結果を踏まえて今後、現在実施しているオープンダイアログを基本とした親の勉強会をますます周知、広げるとともに、兄弟姉妹のための勉強会といった新たな活動にも繋げていきたい。

その他、元ひきこもり当事者であり、かつ、現在ひきこもりの子を持つ親である方が数名いた。

(Q3)ご年齢についてお尋ねします

20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明
2	7	4	19	26	14	3	0	1



参加者の年齢は、50歳代(34.2%)、40歳代(25%)、60歳代(18.4%)、20歳代(9.2%)の順であった。

講演会の実施前は、8050問題にかかる親の参加が多いと想定していたが、実際は意外に少なかった。高齢者の参加が少なかった理由は、年長的に講演会に参加しようとする気力さえ薄れてしまっているか、ネット自体になじみがない年齢の方であると講演会があることを知りえなかったのではないかとと思われる。次回、事業を行う際には、高齢者の方に向けた効果的な周知方法を検討していただくことが課題である。

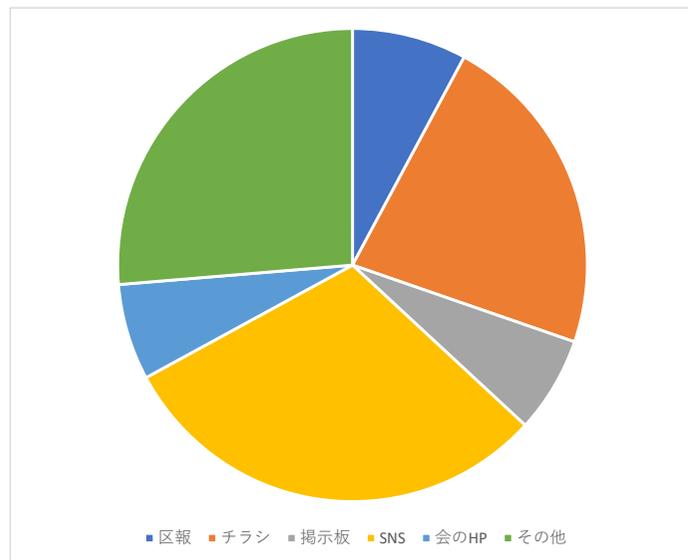
また、60歳以上の高齢者の参加者は、ネットでの申し込みが困難であり電話での申し込みをされる方や、会場の場所がわからず、電話で道案内を必要とする方がいた。このことから、高齢者向けに事業を実施する際には、いつでも対応できるよう電話対応の人員強化、チラシとともに会場の詳細な地図の配布、駅から会場までの案内をする人員の確保といった工夫をする必要があると考える。

一方で、若年世代からの申し込みもあり、引きこもりは全世代共有の課題であると改めて認識することができた。

当団体としては、8050問題に係る家族に対して、支援を強化していきたいと考えているため、講演会の実施を通じて見つかった課題をクリアし、必要とする人に必要な支援が出来るように、今後のイベントの運営に反映していきたい。

(Q4)今回の講演会をどのような方法でお知りになりましたか？

区報	チラシ	掲示板	SNS	会のHP	その他
6	17	5	23	5	20



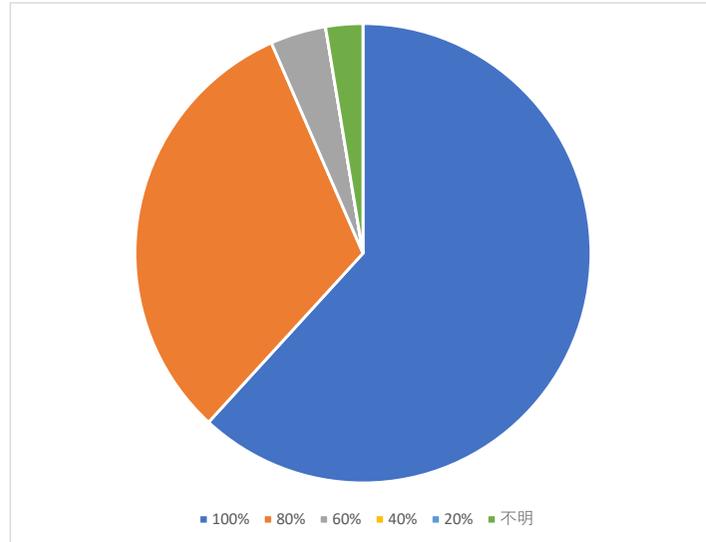
集客効果が高かったのはSNS(30.3%)、その他(26.3%)、チラシ(22.4%)、区報(7.9%)の順であった。

区報・掲示板は、思ったより効果が出なかった。

掲示板によっては他の掲示物が多すぎてチラシが重なっており、埋もれてしまい見えない状況であった。(写真右)

(Q5)本日の講演会の満足度について

100%	80%	60%	40%	20%	不明
47	24	3	0	0	2



満足度80%以上と回答した方の割合は、93.4%とかなり高く、講演会としては大成功である。

参加者よりいただいたご意見・ご感想を一部掲載する。今後の事業運営を考えるにあたり、参考としていきたい。

■満足度100%

- ・とてもためになりました。私は当事者に近いのですが、親あるあるが沢山ありました。
- ・とても良かった。質問でゲーム障害やHSPを一刀両断にしてくれたのは、「親の方に広がる不安を切る」という意味で良いと思いました。
- ・不登校やひきこもりといった状態に向き合う、伴走する上での考え方やスタンスについて知ることができました。
- ・家族会の方達だけでもいいですから、次回もお願いします。有難うございました。
- ・後半、特に具体的な話が伺えました。親が何をすべきか色々なパターンで知りたいです。

■満足度80%以上

- ・最後の30分間の質問コーナーが特に良かったので、もっと時間をとってほしい。
- ・私も長い間ひきこもっていましたが、そういう状態から脱せる人が非常に少ないというのは納得できます。多分、幸運が必要だと思います。
- ・NPOの方で関わった成功例、失敗例などの事例提示があるとソリューションにはならないが、参加者のモチベーションになると思います。

■満足度60%以上

- ・会場からの質問をもっと聞く時間をとったほうが良いと思いました。